

令和6年度における果樹カメムシ類による被害

本年度は、4～7月にかけて果樹カメムシ類の果樹への被害が問題になったため、この時期の被害について紹介します。

《主要な果樹カメムシ3種》



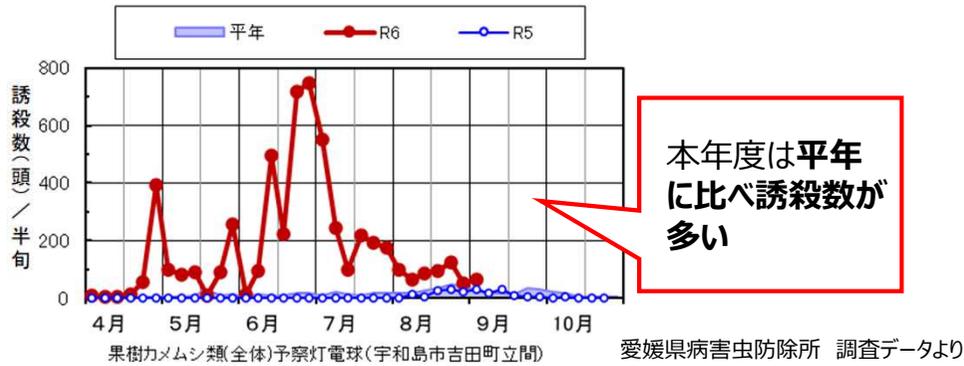
チャバネアオカメムシ



ツヤアオカメムシ



クサギカメムシ



《被害果に残る口針鞘》



- 加害された果実には口針鞘が見られる
- 〈口針鞘とは〉
- カメムシが口針を刺して果実を吸汁したあとに残る唾液の痕跡

加害された果実にみられる口針鞘

《果樹カメムシ類による4～7月の果実被害》

● カンキツでの被害

花の被害



つぼみを吸汁するクサギカメムシ

- 本年度は幼果への加害が顕著で、落果や異常着色などの被害がみられた。また、吸汁によって奇形が生じることもあった。
- 吸汁により、つぼみの落下や新梢のしおれといった被害もみられた。

果実の被害



果実を吸汁するチャバネアオカメムシ



果実に生じた奇形



果実の黄化



落下した果実

新梢の被害



新梢のしおれ

● キウイフルーツでの被害



亀裂の被害



果皮下に見られる被害



- 幼果期に被害を受け、果実に亀裂やコブが発生
- 夏場以降の加害では、外見に症状は現れにくいものの、果皮下に被害症状がみられることが多い。

- 多発した場合、開花期～幼果期でも被害を受ける。
- 本年度の果樹カメムシ類の多発生は、昨年度に餌となるヒノキ球果が多く、越冬する個体が多かったことが原因である。
- この時期の発生量は前年の越冬量で予想できるため、病害虫防除所の調査結果を参考にして、防除の要否を判断する。